

函館館蔵

函館えさん小と
モルック交流会

2月29日、函館市立えさ
ん小学校（長浦紀華校長）
を通じて、小規模校同士の
交流を深めた。

道内各校 さまざまな 取組紹介

に体操に取組んだり、手話を教えたりするなどの取組を続けてきた。対面で交流したのは今回が初めて。

えさん小ではオンライン交流を機に各児童が中心となつて、独学で手話に挑戦する、互いに新たな学びの刺激を受けているという。

交流会では函館響の児童9人とえさん小の高学年児童11人が参加し、簡単な手話のレクチャーを受けたあとと体育館に移動、今夏にキルックの世界大会が函館で開催されるのを踏まえ、両校の児童は混合のグループで競技に挑戦した。

児童らはデジタルサイネージで写し出され得点をもとに、狙った字を変えながら作戦を相談しながらゲームに臨んだ。話合いで決めた順番に棒を投げ、ピンを倒すとハイスコアや拍手で喜びを分かち合った。

えさん小の東品也さん(5年)は、みんなキルックを楽しく遊んだ。ゲームブックの話もできたので、また交流したい、函館響の下田大翔さん(5年)はキルック



クで一緒に遊んだことがあった。もううれしかった。少し緊張したけれど、手話の交流もできた」と笑顔を見せた。

室蘭聾と遠隔交流
楽しいひとときを

1日、同校と室蘭聾学校の二階洋子校長の5年生がオンラインで交流した。学校生活について互いに質問し合い、会話を弾ませた。

同校と室蘭聾の5年生の在籍数は1人。普段は学級担任とのマンツーマンで学習している。同学年の友人と交流する機会を確保しようという年度から開始した。

同校からは下田大翔さん、室蘭聾からは女子児童1人が参加。両校の担任が

横に付き添い、オンライン形式で手話を交え相互に質問する形で会話を進めた。ト田さんは「学習発表会では何をしましたか」と質問。室蘭蘭の玄風児童は劇のタイトルや内容、自分が演じた役柄を紹介し、互いに学習発表会の様子を紹介した。

好きな教科の話題では互いに家庭科を答え、それぞれ

れ印象深かった学習を発表した。下田さ(は田)はで取獲したきを炊いたこととや塩おにぎりを作ったことと、女子児童は豆腐や油揚げを材料に多汁を調理したことを伝えた。

2人は室蘭で修学旅行で札幌、小樽を訪れた際の話をしたり、互いのきょうだいや学校給食のメニュー、好きなキャラクターの話をしたりして、楽しいひとときを過ごした。

取組を見守った橋谷利崇教頭は「5年生は1人学級なので、同年の児童との交流が日常ではできない。今回ICUを使って、交流できたことは児童の成長にとって貴重なこととなるので今後も継続したい」と話した。

健康増進 学校間交流

地域に広がる モルックの輪

学校と小 互いにナイスプレー



両校の児童生徒が楽しんでモルック交流会

函館専門学校（門真義弘校長）は、5月29日、同校で函館えささん小学校（長浦紀華校長）とモリツク交流会を行った。

両校の交流のきっかけは、昨年、門真校長が新聞報道でえささん小が取り組む「えささん体操」を知り、雙学校児童の一人がDVDでおれの手紙を送った経緯からい合わせること。同小は校長、盛んに交流するようになった。

町内会で導入練習に熱

に開わらず楽しめる。

函館市内で8月に世界大会が開かれることで道南各也で鏡支那を育ててゐる

ニケーション
方考える